

令和 6 年度前橋市中学校体育連盟サッカー競技大会におけるメディカルサポート報告

1. メディカルサポートの概要（表 1）

- ・参加大会：2 大会，全 56 試合
前橋市中学校夏季大会（以下，夏季大会）：5 日間 39 試合
前橋市中学校新人大会（以下，新人大会）：5 日間 17 試合
- ・参加スタッフ数（延べ）：理学療法士 48 名
- ・対応数（延べ）：63 校，120 選手，243 件

表 1. メディカルサポート概要

大会日程	試合数	スタッフ 人数	対応数（延べ）		
			学校数	選手数	件数
夏季大会(5/25～6/15)	39	32	37	75	170
新人大会(9/28～10/19)	17	16	26	45	73
合計	56	48	63	120	243

2. 傷害部位および傷害内容（表 2，3）

- ・傷害部位：傷害総数 112 件中，足関節が 27 件（24%）と最も多く，次いで下腿が 17 件（15%），膝関節 10 件（9%）であった。
- ・傷害内容：傷害総数 112 件中，打撲が 24 件（21%）と最も多く，次いで，足関節捻挫が 22 件（20%），筋痙攣が 10 件（9%）であった。

表 2. 傷害部位別件数（件）

傷害部位	夏季	前橋市新人	計
頭部	4	0	4
顔面	3	0	3
胸腹部	1	1	2
腰部	0	4	4
上腕	1	0	1
肘関節	1	0	1
前腕	1	0	1
手関節	2	1	3
手指	2	5	7
股関節	1	0	1
大腿部	3	3	6
内転筋群	1	0	1
大腿四頭筋	3	3	6
ハムストリングス	4	3	7
膝関節	5	5	10
下腿	11	6	17
足関節	20	7	27
足部	2	1	3
足趾	4	0	4
その他	0	4	4
合計	69	43	112

表 3. 傷害分類別件数（件）

傷害分類	夏季	新人	計
打撲	17	7	24
足関節捻挫	17	5	22
筋痙攣	6	4	10
肉離れ	5	3	8
出血	6	1	7
突き指	2	4	6
関節周囲痛	2	3	5
腰痛	0	4	4
骨折	3	0	3
膝蓋周囲障害	1	2	3
熱中症	2	1	3
シンスプリント	2	0	2
膝関節靱帯損傷	0	1	1
歯科傷害	1	0	1
その他	5	8	13
合計	69	43	112

3. 受傷機転（表 4，5）

- ・傷害総数 112 件中，外傷による受傷は 71 件（63%），Overuse による受傷は 28 件（25%）と外傷による受傷が多かった．
- ・傷害部位別：外傷による受傷は足関節が 27 件（24%）と最も多く，次いで下腿が 17 件（15%），膝関節が 10 件（9%）であった．

表 4. 受傷機転別対応件数（件）

	外傷	Overuse	その他	計
夏季大会	49	13	7	69
新人大会	22	15	6	43
合計	71	28	13	112

表 5. 受傷機転による傷害部位別対応件数（件）

傷害部位	外傷	Overuse	その他	計
頭部	2	0	2	4
顔面	3	0	0	3
胸腹部	2	0	0	2
腰部	0	4	0	4
上腕	1	0	0	1
肘関節	1	0	0	1
前腕	1	0	0	1
手関節	3	0	0	3
手指	7	0	0	7
股関節	0	0	1	1
大腿部	4	1	1	6
内転筋群	0	1	0	1
大腿四頭筋	3	2	1	6
ハムストリングス	1	5	1	7
膝関節	5	3	2	10
下腿	5	10	2	17
足関節	24	2	1	27
足部	3	0	0	3
足趾	4	0	0	4
その他	2	0	2	4
合計	71	28	13	112

4. サポート内容（表 6, 7）

- ・対応時期：対応総数 243 件中，試合後が 108 件（44%）と最も多く，次いで試合前が 83 件（34%）であった．
- ・対応内容：対応総数 243 件中，テーピング実施が 80 件（33%）と最も多く，次いで傷害確認・指導が 66 件（27%），アイシング指導が 24 件（10%）であった．

表 6. 対応時期別対応件数（件）

対応時期	夏季	前橋市新人	計
試合前	56	27	83
試合中	19	16	35
ハーフタイム	10	7	17
試合後	85	23	108
合計	170	73	243

表 7. 対応内容別対応件数（件）

	夏季	前橋市新人	計
テーピング実施	54	26	80
アイシング実施	16	3	19
アイシング指導	16	8	24
ストレッチング実施	9	4	13
ストレッチング指導	13	7	20
止血処置	7	1	8
徒手的治疗	3	7	10
傷害確認・指導	49	17	66
その他	3	0	3
計	170	73	243

5. テーピング実施目的および部位（表 8, 9）

- ・ 2 大会におけるテーピングの実施は 80 件であった。
- ・ 目的：症状緩和が 52 件（65%）と大半を占め、次いで予防が 12 件（15%）であった。
- ・ 部位：足関節が 26 件（33%）と最も多く、次いでハムストリングスが 9 件（11%），手指，下腿が各 8 件（10%）であった。

表 8. テーピング目的別対応件数（件）

	夏季	新人	計
予防	4	8	12
症状緩和	39	13	52
応急処置	7	4	11
修正・追加	4	1	5
合計	54	26	80

表 9. テーピング部位別対応件数（件）

	夏季	新人	合計
腰部	0	1	1
肘関節	1	0	1
手関節	1	1	2
手指	2	6	8
大腿部	5	2	7
内転筋群	1	0	1
大腿四頭筋	3	2	5
ハムストリングス	6	3	9
膝関節	1	3	4
下腿	5	3	8
足関節	22	4	26
足部	2	1	3
足趾	5	0	5
合計	54	26	80

6. アイシング実施内容および部位(表 10, 11, 12)

- ・2大会におけるアイシングの対応総数は43件であった。
- ・内容：アイシング指導が24件（56%），次いでアイシング実施が19件（44%）であった。
- ・受傷機転：外傷に対するアイシング対応は35件（81%），Overuseに対するアイシング対応は7件（16%）であった。
- ・部位：足関節が18件（42%）と最も多く，次いで下腿が6件（14%）であった。

表 10. アイシング対応内容別対応

	夏季	新人	計
実施	16	3	19
指導	16	8	24
合計	32	11	43

表 11. 対応内容別対応件数（件）

	外傷	Overuse	その他	計
夏季	26	5	1	32
新人	9	2	0	11
合計	35	7	1	43

表 12. アイシング部位別対応件数（件）

	夏季	新人	合計
胸腹部	2	0	2
上腕	2	0	2
手関節	2	1	3
手指	0	2	2
大腿部	2	1	3
内転筋群	1	0	1
大腿四頭筋	3	0	3
ハムストリングス	0	1	1
膝関節	1	0	1
下腿	5	1	6
足関節	13	5	18
足趾	1	0	1
合計	32	11	43

7. ストレッチング実施内容および部位(表 13, 14)

- ・2大会におけるストレッチングの対応総数は33件であった。
- ・内容：ストレッチング指導が20件（61%），次いでストレッチング実施が13件（39%）であった。
- ・部位：下腿が14件（42%）と最も多く，次いで大腿四頭筋が6件（18%），股関節及びハムストリングスが各3件（9件）であった。

表 13. ストレッチング対応内容別

	夏季	新人	計
実施	9	4	13
指導	13	7	20
合計	22	11	33

表 14. ストレッチング部位別対応件数

	夏季	新人	合計
腰部	0	1	1
股関節	3	0	3
大腿部	2	0	2
大腿四頭筋	2	4	6
ハムストリングス	3	0	3
膝関節	1	1	2
下腿	10	4	14
足関節	0	1	1
足部	1	0	1
合計	22	11	33

7. まとめ

今年度は春季大会が廃止され、夏季大会と新人大会の 2 大会のサポートであった。1 試合あたりの対応件数は 4.34 件（夏季大会 4.35 件，新人大会 4.29 件）であった。今年度の夏季大会は予選リーグがあり、各校 1 日に 2 試合行う試合日程があったことも関係し、大会期間中の対応件数は新人大会と比較して多かったと考えられる。

傷害件数は 112 件であり、外傷による受傷が約 6 割を占めていた。傷害部位は足関節と下腿が多かった。対応内容は、テーピング実施が最も多く、実施目的別件数では、症状緩和が最も多かった。特に夏季大会で症状緩和を目的としたテーピング対応が多く、1 日に 2 試合行う試合日程において、1 試合目に傷害が生じた選手に対して、次戦に向けた対応として症状緩和を目的としたテーピング対応が求められた結果ではないかと考える。

傷害分類としては、打撲や足関節捻挫が多く、特に夏季大会で多くみられた。1 日の試合数増加に伴い、コンタクトの回数や疲労等も重なり、発生件数が増加した可能性が考えられる。夏季大会、新人大会ともに上記傷害の発生件数は上位にあるため、引き続き、傷害が発生した場合の評価や対応方法などをあらかじめ想定しておけるよう準備しておく必要があると考える。

今年度の夏季大会のような開催形式では、予選リーグの 1 試合目に受傷した場合、同日の次戦の出場に関する監督やコーチの判断に役立てられるような情報提供ができるように、適切な評価や対応がとれるよう準備を行なっていく必要があると考える。また、夏季大会においては暑熱環境下での試合となる場合が多く、筋痙攣や熱中症の発生も考えられる。来年度以降も予選リーグを行う大会形式となった場合、試合間の休息の取り方についても提案できるように準備しておく必要があると考える。

令和 6 年度群馬県中学校体育連盟サッカー競技大会における メディカルサポート報告

1. メディカルサポートの概要（表 1）

- ・ 参加大会：2 大会，全 46 試合
群馬県中学校総合体育大会（以下，夏季大会）：4 日間 23 試合
群馬県中学校新人大会（以下，新人大会）：4 日間 23 試合
- ・ 参加スタッフ数（延べ）：理学療法士 30 名
- ・ 対応数（延べ）：29 校，62 選手，110 件

表 1. メディカルサポート概要

大会日程	試合数	スタッフ 人数	対応数（延べ）		
			学校数	選手数	件数
夏季大会(7/6～7/20)	23	19	14	36	62
新人大会(11/16～11/30)	23	11	15	26	48
合計	46	30	29	62	110

2. 傷害部位および傷害内容（表 2，3）

- ・ 傷害部位：傷害総数 66 件中，足関節が 13 件（20%）と最も多く，次いで手関節，下腿が各 10 件（15%），膝関節が 8 件（12%）であった。
- ・ 傷害内容：傷害総数 66 件中，打撲が 15 件（23%）と最も多く，次いで骨折が 10 件（15%），足関節捻挫が 9 件（14%）であった。

表 2. 傷害部位別件数（件）

傷害部位	夏季	新人	計
頭部	1	0	1
胸腹部	0	2	2
腰部	1	0	1
肘関節	1	0	1
前腕	2	0	2
手関節	8	2	10
手指	3	2	5
股関節	0	1	1
大腿部	0	1	1
内転筋群	0	1	1
ハムストリングス	1	0	1
膝関節	5	3	8
下腿	5	5	10
足関節	7	6	13
足部	2	1	3
足趾	2	2	4
その他	1	1	2
合計	39	27	66

表 3. 傷害分類別件数（件）

傷害分類	夏季	新人	計
打撲	9	6	15
骨折	8	2	10
足関節捻挫	5	4	9
筋痙攣	3	4	7
膝蓋周囲障害	3	3	6
出血	1	1	2
肉離れ	1	1	2
突き指	1	1	2
膝関節靱帯損傷	1	0	1
腰痛	1	0	1
その他	6	5	11
合計	39	27	66

3. 受傷機転（表 4, 5）

- ・ 傷害総数 66 件中，外傷による受傷は 39 件（59%），Overuse による受傷は 13 件（20%）と外傷による受傷が多かった．
- ・ 傷害部位別：外傷による受傷は足関節が 10 件（26%）と最も多く，Overuse による受傷は下腿が 6 件（43%）と最も多かった．

表 4. 受傷機転別対応件数（件）

	外傷	Overuse	不明	計
夏季大会	24	6	9	39
新人大会	15	8	4	27
合計	39	14	13	66

表 5. 受傷機転による傷害部位別対応件数（件）

傷害部位	外傷	Overuse	不明	計
頭部	1	0	0	1
胸腹部	2	0	0	2
腰部	0	0	1	1
肘関節	1	0	0	1
前腕	1	0	1	2
手関節	5	0	5	10
手指	5	0	0	5
股関節	0	0	1	1
大腿部	1	0	0	1
内転筋群	1	0	0	1
ハムストリングス	1	0	0	1
膝関節	2	4	2	8
下腿	3	6	1	10
足関節	10	3	0	13
足部	1	1	1	3
足趾	4	0	0	4
その他	1	0	1	2
合計	39	14	13	66

4. サポート内容（表 6, 7）

- ・対応時期：対応総数 110 件中，試合後が 52 件（47%）と最も多く，次いで試合前が 28 件（25%），試合中が 21 件（19%）であった。
- ・対応内容：対応総数 110 件中，テーピング実施が 38 件（35%）と最も多く，次いでアイシング実施が 22 件（20%），傷害確認・指導が 18 件（16%）であった。

表 6. 対応時期別対応件数（件）

対応時期	夏季	新人	計
試合前	17	11	28
試合中	10	11	21
ハーフタイム	7	2	9
試合後	28	24	52
合計	62	48	110

表 7. 対応内容別対応件数（件）

	夏季	新人	計
テーピング実施	25	13	38
アイシング実施	9	13	22
アイシング指導	7	2	9
ストレッチング実施	3	6	9
ストレッチング指導	6	5	11
止血処置	1	0	1
徒手の治療	0	1	1
傷害確認・指導	10	8	18
救急搬送	1	0	1
計	62	48	110

5. テーピング実施目的および部位（表 8, 9, 10）

- ・ 2 大会におけるテーピングの実施は 38 件であった。
- ・ 目的：症状緩和が 28 件（74%）と大半を占め、次いで予防が 5 件（13%）であった。
- ・ 時期：試合前が 26 件（68%）と最も多く、次いでハーフタイムが 8 件（21%）であった。
- ・ 部位：手関節、足関節が各 8 件（21%）と多く、次いで膝関節が 6 件（16%）であった。

表 8. テーピング目的別対応件数（件）

	夏季	新人	計
予防	4	1	5
症状緩和	19	9	28
応急処置	1	2	3
修正・追加	1	1	2
合計	25	13	38

表 9. テーピング時期別対応件数（件）

	夏季	新人	計
試合前	16	10	26
試合中	2	2	4
ハーフタイム	7	1	8
合計	25	13	38

表 10. テーピング部位別対応件数（件）

	夏季	新人	合計
胸腹部	0	1	1
前腕	1	0	1
手関節	7	1	8
手指	2	2	4
内転筋群	0	1	1
ハムストリングス	1	0	1
膝関節	4	2	6
下腿	2	1	3
足関節	5	3	8
足部	2	1	3
足趾	1	1	2
合計	25	13	38

6. アイシング実施内容および部位（表 11, 12）

- ・ 2 大会におけるアイシングの対応総数は 31 件であった。
- ・ 内容：アイシング実施が 22 件（71%），アイシング指導が 9 件（29%）であった。
- ・ 部位：足関節が 9 件（29%）と最も多く、次いで膝関節が 5 件（16%）であった。

表 11. アイシング対応内容別対応件数（件）

	夏季	新人	計
実施	9	13	22
指導	7	2	9
合計	16	15	31

表 12. アイシング部位別対応件数（件）

	夏季	新人	合計
胸腹部	0	2	2
手関節	3	1	4
手指	2	0	2
大腿部	0	1	1
膝関節	3	2	5
下腿	2	1	3
足関節	5	4	9
足部	0	1	1
足趾	1	2	3
その他	0	1	1
合計	16	15	31

7. ストレッチング実施内容および部位（表 13, 14）

- ・ 2 大会におけるストレッチングの対応総数は 20 件であった。
- ・ 内容：ストレッチング指導が 12 件（60%），ストレッチング実施が 8 件（40%）であった。
- ・ 部位：下腿が 10 件（50%）と最も多く，次いで膝関節が 4 件（20%）であった。

表 13. ストレッチング対応内容別対応件数

	夏季	新人	計
実施	3	5	8
指導	7	5	12
合計	10	10	20

表 14. ストレッチング部位別対応件数

	夏季	新人	合計
腰部	1	0	1
前腕	2	0	2
股関節	0	1	1
内転筋群	0	1	1
膝関節	2	2	4
下腿	5	5	10
足関節	0	1	1
合計	10	10	20

8. まとめ

今年度より春季大会が廃止となり夏季大会・新人大会の 2 大会のみの開催であった。対応件数は 110 件であり，1 試合あたりの対応件数は 2.39 件（夏季大会 2.69 件，新人大会 2.09 件）であった。

傷害総数は 66 件であり，傷害分類に関しては打撲や骨折，足関節捻挫が多く見られ，外傷による受傷が約 6 割を占めた。傷害部位は足関節が 13 件と最も多く，その殆どは足関節捻挫と打撲によるものであった。メディカルスタッフとして受傷機転を見逃さないように試合状況に目を配り，迅速な対応に繋げられるように準備する必要があると考える。また，足関節捻挫はサッカー選手に最も起こりやすい傷害の一つである上に，再受傷を起こしやすいスポーツ傷害であるため，その場の適切な評価・応急処置に加えて，今後の指導として患部の管理方法について丁寧に説明することが重要であると考えられる。

対応内容はテーピング実施が最も多く，その中でも試合前の対応が最も多かった。その大半が症状緩和を目的としており，試合に出場する上でパフォーマンスを阻害せず効果的なテープの選択を行うことが重要であると考えられる。一方でハーフタイムのテーピング実施も 2 割存在した。試合前と違い，時間が無い中での対応となるため，出場の可否を含めた適切な評価をした上でテーピングを実施する必要がある。また試合やチーム状況も踏まえた上での対応となるため，監督やチームスタッフとのコミュニケーションを図りながら柔軟な対応とテーピング方法の選択が求められると考えられる。